

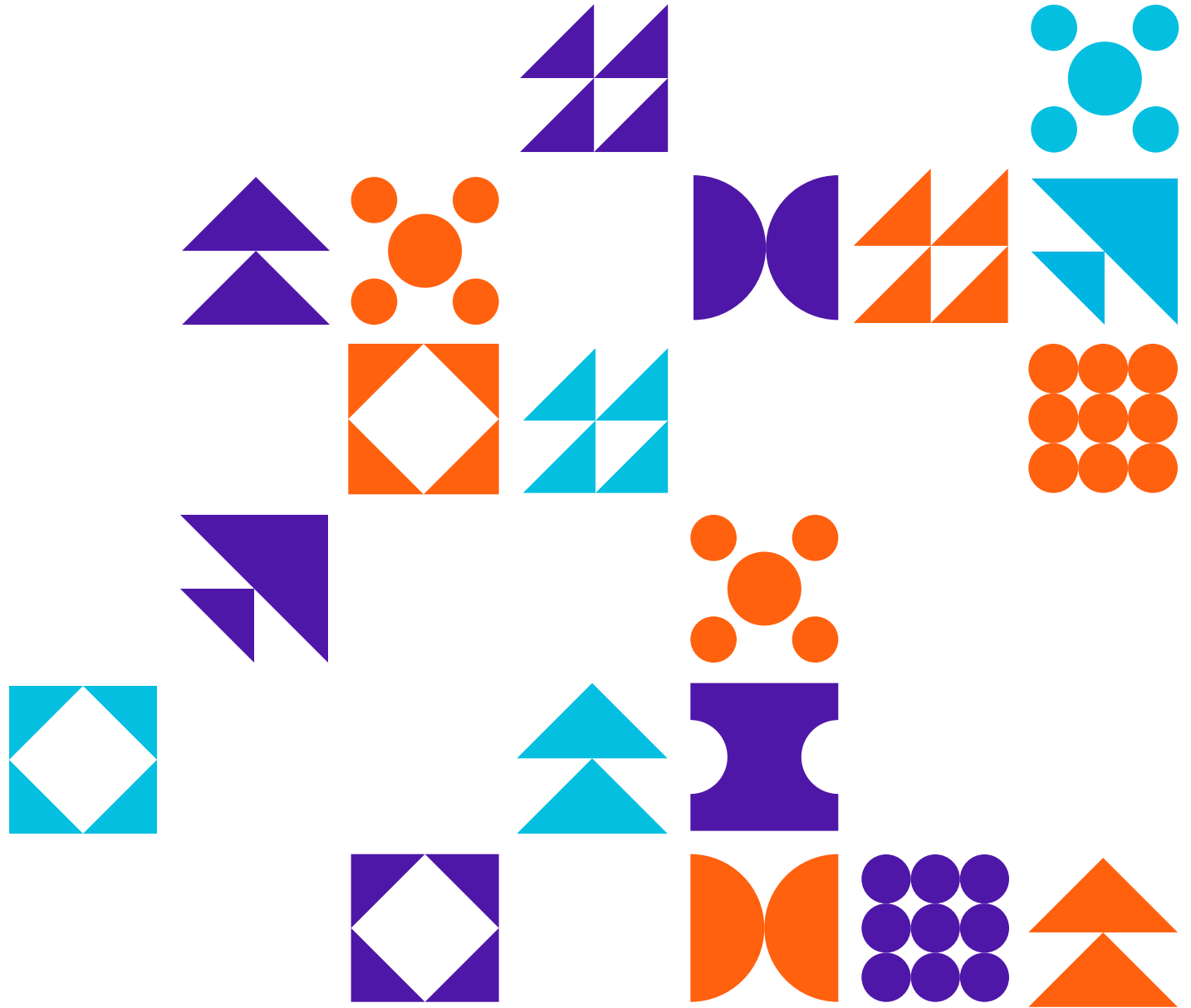
AI@WORK STUDY GROUP OVERVIEW

Objectives and Future
2020 Cycle1 Retrospective & Review

2020年9月16日

武上弥尋・渡邊恒文

AI@Work Study Group, PMI Japan



AI@Workとは？ (2019/12/3 PMI日本支部 ホームページ掲示 募集要項より引用)

AIの適用・活用をプロジェクトマネジメントの視点で捉え、あるべき姿や進め方を探求する、新たな研究グループAI@Workを設立いたします。

目的 (Purpose)	社会や経済に新たな影響力をもつAI、その適用・活用をプロジェクトマネジメントの視点で捉え、あるべき姿や進め方を探究・共有する
役割 (Mission)	世界レベルでAIの活用が進む中、プロジェクトマネジメントの観点から、日本のAI適用・活用の加速を図る
めざす姿 (Vision)	AI適用・活用プロジェクトに関わる多様な方々と、AI利活用でのプロジェクトマネジメントのあり方や、それら知見の活用・有用性を共有し、PMコミュニティを通じた醸成・発展に努める
戦略と 主要活動 (Strategy & Main Action)	Making Opportunity: 研究・理解・共有の機会づくり 1. Case Study (ユースケースや進め方の探究) 2. Understanding of Technologies (AI技術の理解深耕) 3. Sharing Knowledge (各種の発信と情報共有)
基本事項 (Concept)	S mall Start (小さく始め大きく育てる) S haring (知見の持ち寄り、情報共有・発信に努める) S peciality (専門力を強化する)

Small Start のはずが、、、

AIの適用・活用をプロジェクトマネジメントの視点で捉え、あるべき姿や進め方を探求する、新たな研究グループAI@Workを設立いたします。

目的 (Purpose)	12/3 受付開始
役割 (Mission)	12/13 28名申込、締切早期化へ
めざす姿 (Vision)	AI適用・活用プロジェクトに関わる多様な方々と、AI利活用でのプロジェクトマネジメントのあり方や、それら知見の活用・有用性を共有し、PMコミュニティを通じた醸成・発展に努める
戦略と 主要活動 (Strategy & Main Action)	締切変更 1/24→12/17 1. Case Study (ユースケースや進め方の探究) 2. Understanding of Technologies (AI技術の理解深耕) 3. Sharing Knowledge (各種の発信と情報共有)
基本事項 (Concept)	14日間での申込 116名 Sharing (知見の持ち寄り、情報共有・発信に努める) Speciality (専門力を強化する)

2020/1/31 Kick Off!!!

Huge/Virtual/Physicalを前提に、**Diversity/New Generation/Open Collaboration**にも考慮
計129名でのスタート（会場: 73名、リモート:51名、運営関係者:5名）

日本IBM 本社301会議室



AI@Workの推進体制

WG1

PM4AI

Leader 板橋 宣孝

Sub Leader 小山 恵一郎

運営支援

WG2

AI4PM

Leader 林 克郎

Sub Leader 栗野 哲兵

運営支援

WG3

AIK4PM

Leader 佐藤 美一

Sub Leader 細水 真人

運営支援

AI@Work

代表 武上 弥尋

副代表 渡邊 恒文

AI@Work 運営支援 (TBD)

PMIJ 事務局

三島 邦彦

AI@Work Advisory Board

PMI WW 神庭 弘年

PMI Japan

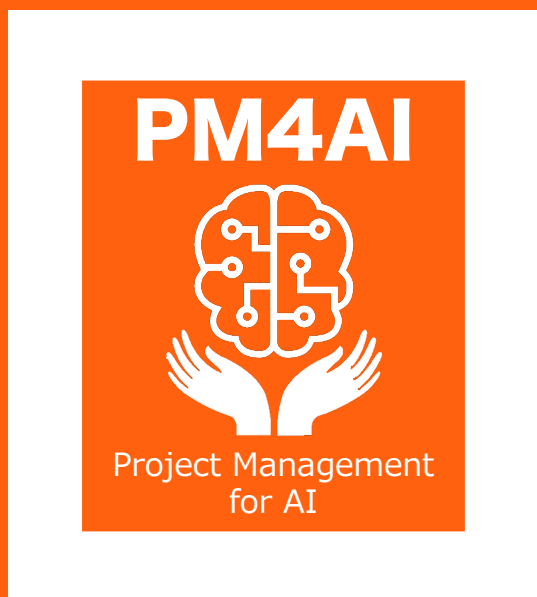
森田 公至, 齋藤 学, 松本 弘明

AI@Work Study Group

WG1

PM4AI

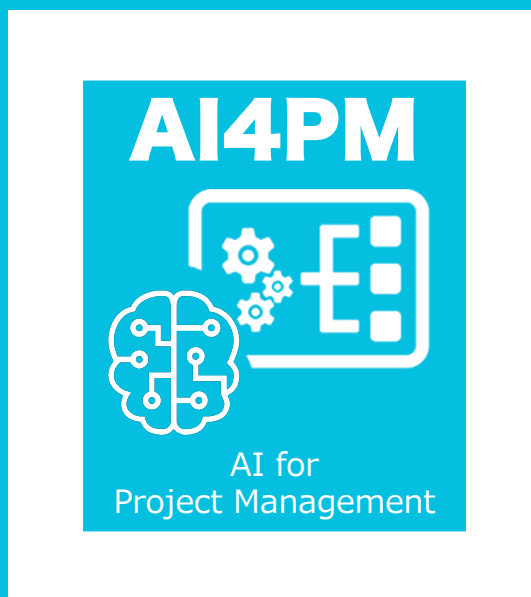
Project
Management
for AI



WG2

AI4PM

AI for
Project
Management



WG3

AIK4PM

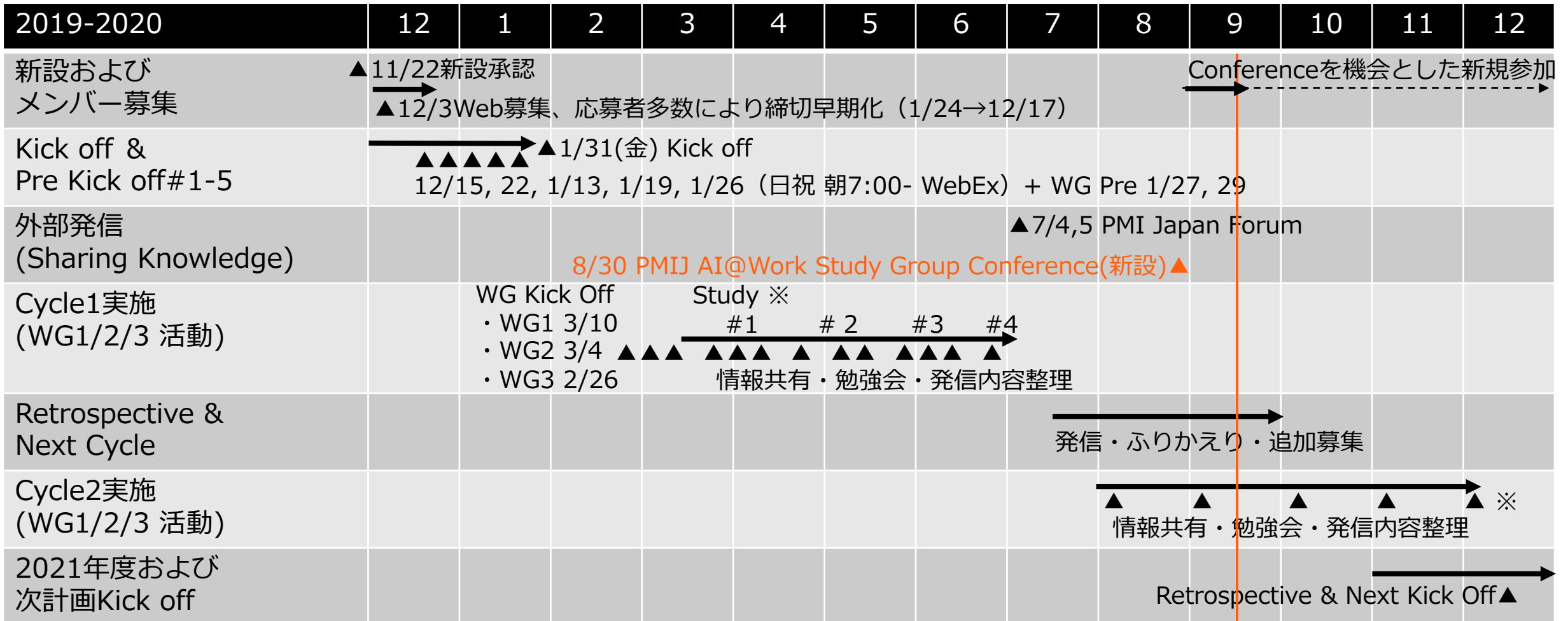
AI Knowledge
for
Project Managers



AI@Work Master Schedule (as of 2020/9/16)

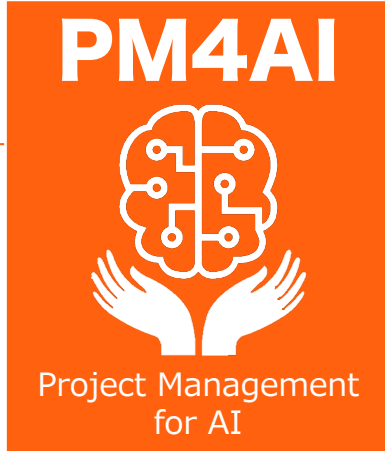
Cycle1でのふりかえりを基に、Cycle2の活動を開始、研究成果を共有・発信

新設Conferenceは盛況・高評価、申込126名/参加102名、5 Topicの評価 97-83%(大変良い・良い合計)

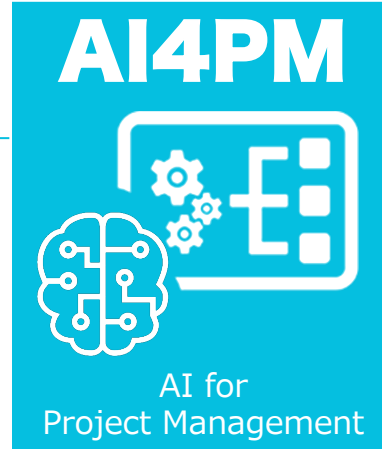


Cycle 1 各WG研究テーマ

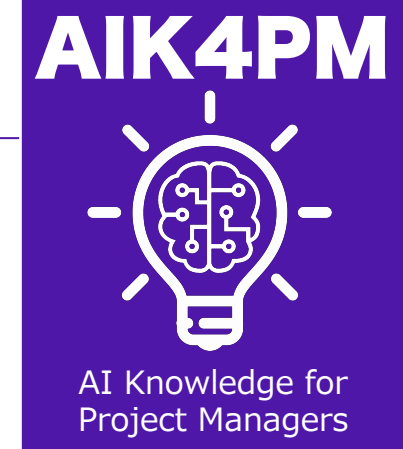
日々のやりとり（Slack）と月次ミーティング（Virtual MTG+Slido+Slack）で推進



- ・ベンダーに発注する際の開発契約の留意点
- ・アノテーション
- ・PoCから実用化移行への成功要因
- ・運用保守（MLOps）
- ・顧客への新たな価値提供
- ・AIプロジェクト特有のリスク
- ・全般的な従来型プロジェクトとの差異



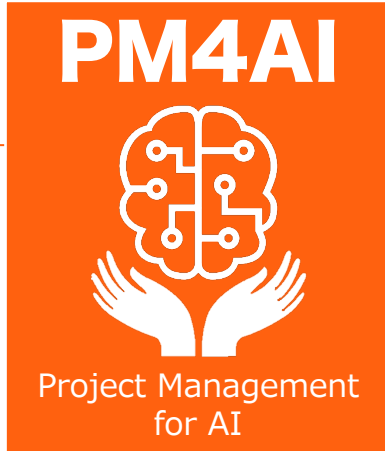
1. サブグループA
悪化、失敗、
リスクに関する予兆・予測
2. サブグループB
現状の見える化
情報処理のサポート



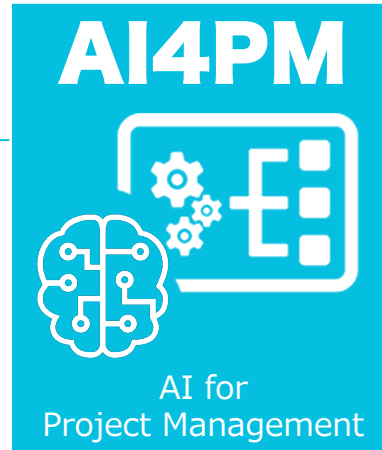
1. AI知識の習得
- 課題図書 of 輪講
『俯瞰図から見える
日本型“AI(人工知能)”
ビジネスモデル』
大野治, 2017.12.
2. PMに求められるAI知識の習得
- AIプロジェクト事例紹介

Cycle 2 各WG研究テーマ (as of 2020/8/30)

Cycle1での活動結果を踏まえ、さらなる深耕および新規のテーマを設定

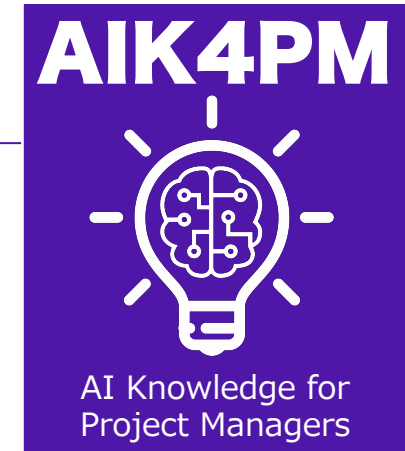


- プロジェクト成功要因・PoCから実用化への移行アプローチ方法
- 保守
- ベンダー発注側の作成する要求定義・RFP
- アノテーション
- AIプロジェクト特有のリスク
- 全般的な従来型プロジェクトとAIプロジェクトの違い
- AIプロジェクトマネジメント



Cycle1での検討ノウハウを結合、実現に向けての課題について、調査・整備

- ・現在のAI技術で実現可能な範囲
- ・情報をAIで統合管理するためのデータモデル論の整備



1. AI知識の習得
課題図書の輪講
『AI白書2020』
IPA, 2020.3.2
2. グループ別ディスカッション
 1. 輪講内容の深堀
 2. Deep Learning G検定勉強会

各種ツールの活用 (as of 2020/8/30)

Virtual Meeting (WebEx、Skype for Business)

当初よりリモート併用が前提 (結果としてコロナ対応も大きな影響なし)
→ 各WG もリモートのみで運営中



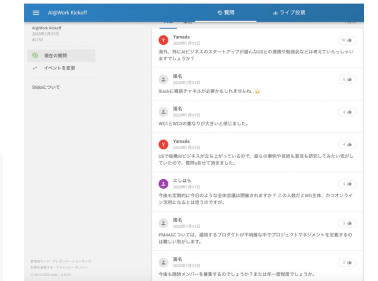
Virtual Meeting

Slack

AI@Workでのコミュニケーション標準ツールとして、Slackを利用
参加者100名超にて、自己紹介はSlackへ
WG間で運営状況や参考情報を共有
→ 70-80名が常時活用、29種類のチャンネル
現在3,800超のメッセージ、事例や成果物も保管



Slack



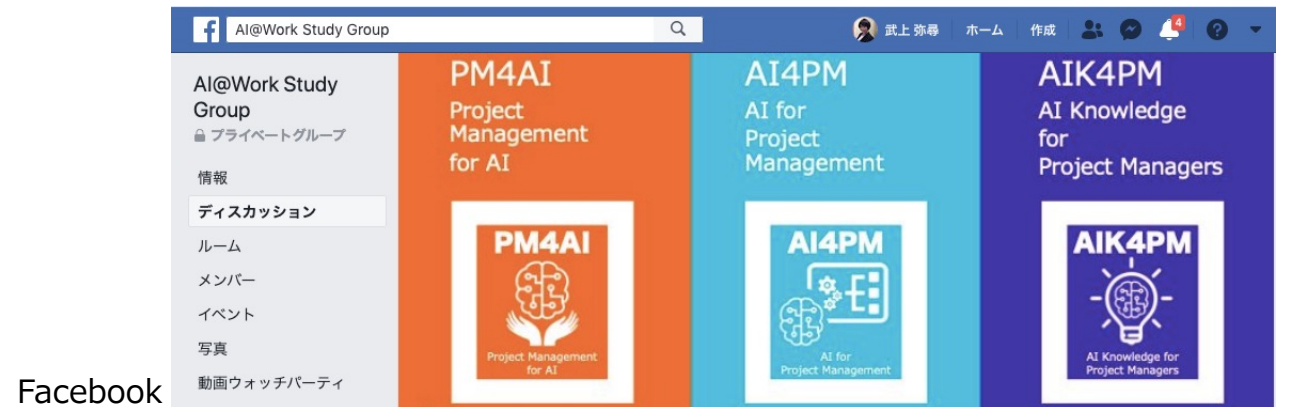
Slido

Slido

Kick offやWGでの意見集約に利用

Facebook

- 外部への情報共有として準備中



Facebook



新しい運営のあり方へのチャレンジ

枠を超えた自由な発想で、新しい運営やそのあり方に挑み、研究グループ本来の価値を高めていく
〈前提とするコンセプト〉

Huge

- 探求すべき/したい領域が多岐にわたるのがAI
- 大人数だからこそできることもある

Virtual

- 場所の制約からの解放
時間の有効活用（首都圏外からも同条件で活動可能）
- IT Toolの有効活用
(Web会議、Slack等)

Physical

- Face to Face Meetingでの新たなアイデアの創出
- 地域・WG・サブテーマ等でのNetworking

〈推進上の考慮点〉

Diversity

- 多様な実務経験・世代・立場・役割での意見共有や議論の機会創出
- 多様な視点がもたらす新たな気づき

New Generation

- 研究活動を軸としたDigital Native世代との協業
- PPPM (Project/Program/Portfolio Manager) や PMI会員 以外の参加

Open Collaboration

- 各WGの活動、参考情報等は常に相互共有(Slack等)
- 外部の研究成果も積極的に活用（必要に応じて今後協業等も検討）

AI@Workの活動で大切にしたいこと

勉強会や情報共有は手段、めざすものは成果の集約や発信

- ・ 現場でつかえる・もちかえる成果
- ・ みんなでこの領域を整理し、AI普及・活用に資する

同調性より多様性

- ・ オープンで健全なディスカッションを大切にする

Agility & PDSA (Plan-Do-Study-Act)

- ・ より良くあるために、試す、変える、ふりかえる

Self-organized/Open collaboration

- ・ AI基礎知識などの自主学習
- ・ AI SW工学やAI品質は、別途研究されるものを参照



Drive Success in a World of Change

The Project Economy is one in which people have the skills and capabilities they need to turn ideas into reality.

Turn ideas into reality

Turn activities into reality

Turn dreams into reality

AI Readyなコンピテンシーを追求し発信していく

日本発、日本の業界へ

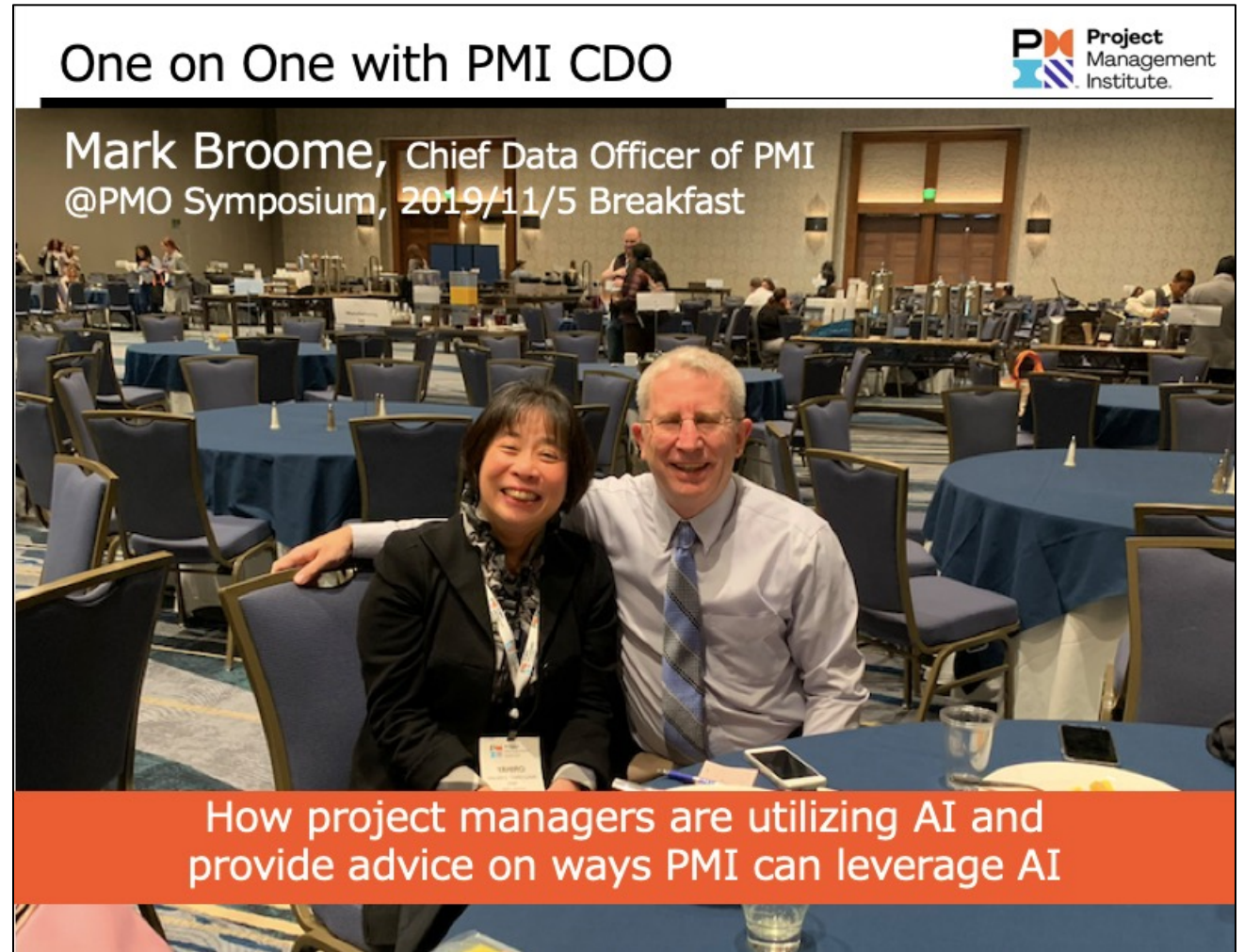
日本発、海外へ

PMI 本部との連携

- AI@Workの活動を連携していく
- 日本発、WWでのコア知識としていく

<ポイント>

- 活動の成果に新規性・先進性があること
- エバンジェリストの創出
- PMI CDO (Chief Data Officer) との連携



First Step to
AI Ready...

AI@Work
Study
Group

